長崎と桜

本会会長　原田博二

１．桜を詠んだ歌碑と句碑

長崎公園(上西山町)の歌碑「元日桜長歌並短歌碑」は、池原香穑(かわか・１８３０～８４)が詠んだ元日桜の長歌と「初春の　むつきを時と　さき匂ふ　花のこころぞ　うれしくありけり」と「諏訪のやま　いかきのさくら　さくにけり　花にしめゆへ　神の宮つこ」の短歌が刻まれている。

元日桜が植えられた時期は不明であるが、諏訪神社正殿に植えられていたものを６代神主青木永純が同家の庭園であった現在地に移植したいう。

同じく長崎公園には、長崎の歌人安中東来の歌碑「東来和歌之碑」があり、「千金の　価の花も　おしけなく　一輪つつを　ちらす春風」他３５首の短歌が刻まれている。安中東来(１８５３～１９２１)は、長崎の歌人で、長川東州や池原香穑等について漢学や国学を修め、以来、博学多才で知られた。

また清水寺(鍛冶屋町)には、文化７年(１８１０)に建立された松尾芭蕉(１６４４～９４)と長崎の平田祥禾(しょうか・？～？)の句碑「花見塚」があり、芭蕉の「しばらくは　花の上なる　月夜かな」、祥禾の「初さくら　世に偽りの　道もなし」が刻まれている。

２．中川カルルス跡

中川カルルスは、明治３３年(１９００)頃、行楽地として桜並木や温泉場などが整備されたことに始まる。温泉場は、チエコ共和国の温泉場カルロヴィ・ヴァリ(カールスバート)のカルルス水を沸かしたことからカルルス温泉と呼ばれた。その後、安田伊太郎が園内を整備、皆花園と命名した。敷地は約１３００坪。桜雲閣や桜橋、龍吟橋などがあり、戸町カルルス(玉蝉園)とともに長崎を代表する行楽地と称された。

このカルルス温泉の名物が「花より団子」ではないが、狂歌に「名物に　うまいものは　なか(中)川と　言わせぬは　この桜餅」とか「家土産に　下戸も上戸も　桜餅　買うは財布を　カルルスにして」と詠われたように桜餅であった。

しかし現在ではかつて桜の名所だったという面影はなく、わずかに桜橋という名前に当時をしのぶばかりである。

絵葉書「長崎カルルス桜」(大正期・個人蔵)

３．横山桜碑

明治３０年(１８９７)の第２期長崎港湾改良工事は、第２代長崎市長横山寅一郎によって始められたもので、同３７年(１９０４)に竣工した。その結果、出島から馬込沖、現在の銭座町一帯、さらには平戸小屋町に至る１８万坪余が造成された。

現在の旭町の一帯には、その完成を記念して桜が植えられ、横山桜と呼ばれ、かつては長崎を代表する桜の名所であった。しかし現在では「横山桜」と刻まれた石碑が残るばかりである。

４．桜にちなむことわざ

桜にちなんだことわざはいろいろとあるが、なかでも「桜は７日」これは桜の花の時期はわずかに７日、つまり短いことのたとえである。「花一時(いっとき)人一盛(ひとさか)り」も人の全盛期も一時のこと。「桜は花に顕(あら)わる」これは普段は平凡な人でも何かの切っ掛けで才能を発揮すること。同じく「花咲く春にあう」も時を得て出世することである。さらには「花咲き実成る」は、物事が成就することであるが、「花に嵐」のようにとかく邪魔が入りやすいもの、同じく「花は折りたし梢は高し」も思うようにならないこと。しかし「花の下(もと)に帰らんことを忘れる」のように、本当に美しいと家に帰ることすら忘れるくらい夢中になるもの、ご用心、ご用心！？

本稿は令和５年４月例会の発表要旨である。